

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人 康晏堂		
事業所名	グループホーム 東海の里	ユニット名	笑笑館
所在地	延岡市水尻町225番地1		
自己評価作成日	平成25年8月26日	評価結果市町村受理日	平成25年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=4590300028-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で挨拶や同じ目線での声掛けに努め、明るい雰囲気の中で、利用者様に安心して生活していただけるよう心掛けています。 ・お一人おひとりの状況に応じた支援をスタッフ全員が考え、話し合いをしながら適切な支援が行えるよう取り組んでいる。 ・身体拘束を行わない努力と工夫を日々考えている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者、職員は、自由な暮らしや明るく笑顔のある「今を喜ぶ」時間を大切に思い、どうしても喜んで楽しめるかを日々考え、日常生活の支援をしている。門扉を開放し、目配り・気配りしながら自由に散歩を楽しむ支援や立位できない利用者でもトイレの排せつを促し、一瞬の喜びを得る努力をしている。代表者は、職員の資格取得や質の向上の重要性を認識し、法人内・外の研修の確保や人員配置にゆとりある日を設定するなど、働きやすい環境作りをしている。また、医療連携体制も整っており、今年度より看護師も配置され、利用者・家族にとってより一層心強い支援体制を確立している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回の定例会議にて、ご利用者に対して話し合いをし、理念に添って支援させていただく。	職員は、理念の必要性について学ぶ機会があり、法人の理念の下、職員全員で具体的なホーム理念を作成・共有し、ケアの実践につなげている。会議の時などに「理念振り返りシート」を作成し、確認しあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に所属しており、回覧板にて情報収集をし、参加できるものは極力出かけ、つながりが持てるよう心掛けている。また近くの小学校とも交流が盛んである。	地区の夏祭りや秋祭りの役回りでの参加や地区の敬老会に参加するなど、地域の一員として交流している。また、ホーム行事や利用者の話し相手に地域ボランティアの来訪もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節行事を通じて、第三者を招いて交流を図るが、具体的な支援方法等の発信なし。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3か月に1回は開催している。その中で意見や要望に関しては、今後活かせるようにしている。	会議においては、さまざまな提言があり、それらを運営に反映させている。また、ホームも地域の方々へ認知症に関する理解を深める場として活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行う上で、相談や報告など適宜電話をしたり、ホームへの見学に訪れることもあり、行事の参加への呼びかけも行い、積極的に参加していただく。	行政担当者とは相談しやすい関係である。運営推進会議やホームの行事などに積極的に参加し、良好な協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような対応が身体拘束につながるのか、全職員が理解確認し、身体拘束をしないケアに努める。また、身体拘束に関する勉強会を行い理解を深めている。	拘束の弊害については全職員が理解している。活発な利用者が数名おり、目配り・気配りをしながら見守り、時には気分が落ち着くまで行動を共にし、意に沿うように支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について勉強を行っており、ホーム内での虐待が見過ごされないように認識を持って支援している。虐待防止関連法については、毎年度、勉強会を行い理解を深めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで学ぶ機会を設けていなかったが、今年度の定例会議の中で勉強会を行った。今後も定期的に行っていく予定。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分に事業内容の説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの不満や苦情があるときはゆっくり話を聞き、改善するところがあれば改善するように努力している		利用者や家族の気持ちを大事にするよう心がけており、来訪等を利用して意見や要望を引き出す努力をしている。出された意見や要望は、職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定例会議にて、意見交換を行っている。ユニット会議も行い、身近に意見交換をしている。		業務・感染・ホーム活動・環境整備の各専門部会の場やまた、日ごろから意見や要望は言い合える場に行っている。浴室に手すり設置の意見が出され、近いうちに計画されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はすべて正規職員として採用し、福利厚生等を充実させ、働きやすい体制をとっている。また、時間外に行う会議には手当をつける等、柔軟に対応している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、順番に外部研修を受けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム行事への招待、案内を出し、交流を行っている。その際、情報交換を行い勉強をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時点で十分に話を聞き、安心・信頼確保の為に関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限り、ご利用者・ご家族に見学に来てもらい、その時に状況を見ながらゆっくり話が出来た時間を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族が必要としている支援を十分に見極めて、支援するように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく暮らせるよう、常に寄り添い、人格を認めあい、対等な人間関係を築く努力をする。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には積極的に話し、現在の様子などを伝え、支えていけるようにご家族との信頼関係を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム近隣のご利用者は、自宅周囲へ一緒に散歩に出かけ、自宅が遠方のご利用者に対しては、ドライブにてなじみの場所へ出かけるよう支援している。	本人や家族から趣味、なじみの人や場所などを聴取し、支援に生かしている。最近では利用者が永年利用していた理髪店に出向いたところ、店主が利用者と連絡が取れず心配されていたことがわかり、利用者が感激した出来事となった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく会話が出来るよう雰囲気づくりに努め、レクリエーションを通して、ご利用者同士の親睦を深め孤立しないように、また、トラブルを未然に防ぐようにご利用者同士の関係把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば、支援するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意思を尊重し、その人らしい生活を送っていただけるように努力している。		利用者一人ひとりの表情や言葉で把握している。言葉を発すれば排せつの訴えであることや物音でいつもの反応がない時は状態が悪い時など、職員は日ごろの生活の中で利用者の小さなサインを見逃さず、思いや意向をくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の個々の性格や生活歴を把握し、ありのままを受け入れ尊重している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や連絡ノートの記入、閲覧や勤務者交替時の連絡を行うことで、現状の把握を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の意向を取り入れ、毎月定例会議を行い、ご利用者の方が楽しく暮らせるよう支援している。		担当制にしており、担当職員の意見や毎月行われる会議で意見交換などを行い、利用者、家族の意見、連絡ノートなどを参考に、現状に即した介護計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録の詳細な記入と職員間の情報交換を密にしている。また、必要に応じてユニット会議を行い、ケアの周知徹底を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況、要望に応じて柔軟な支援を行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々や小学校との交流を通して、ご近所からの理解と支援をいただき、地域資源活用とする。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関を主体にかかりつけ医として、体調不良時など異変がみられる際は、速やかに対応し、また、定期的に医師や看護師が往診している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の来設にて、健康相談や健康管理の連携を行っている。また、看護師資格を持つ管理者代理を迎え、早急な対応で支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会に行くように心がけ、ご利用者に安心感を持っていただくとともに、状況把握を行っている。退院の際には、職員全員が把握できる体制をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化と看取りの必要性が生じた場合の対応は、医療連携体制を利用。契約第8条に記載し、説明を行っている。		重度化と看取りの必要が生じた場合の対応として、利用契約時に本人・家族や関係者と密接な連携協力の下、支援できる体制であることを説明し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え、緊急時には職員全員使えるように訓練をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、すぐに避難できるよう避難訓練を行い、連絡網と手段を決めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内での関係書類は持ちだしを禁止している。また、自尊心を傷つける言葉は使わないようにし、気持ちを和らげ、常に尊敬の念を持って接する。常にご利用者と対等のパートナーの気持ちを持ち、一人ひとりに対する声掛け対応は十分気を配っている。	施設内での関係書類は持ちだしを禁止している。また、自尊心を傷つける言葉は使わないようにし、気持ちを和らげ、常に尊敬の念を持って接する。常にご利用者と対等のパートナーの気持ちを持ち、一人ひとりに対する声掛け対応は十分気を配っている。	排せつ時、入浴時、更衣時等には、声掛けやドアを閉めるなど、日常基本的なことを特に配慮している。また、常に尊敬の念を持って声掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の生活動作のペースに合わせ、意欲と能力を引き出し、多様な場面での自己決定が出来るよう、声掛けを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者と無理のない目標を共有し、目標達成もしくは少しでも近づいたら一緒に喜ぶ。出来ることはご利用者のペースでしてもらい、職員が無理強いすることの無いよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みの服装をしていただく。困難な方は一緒に選ぶようにしているが、出来るだけ自分で着替えられるような脱ぎ着のしやすい衣類にしている。理・美容は、施設内や本人様希望の美容室に行くように配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者も準備・片づけ等を職員とともにやっている。食事は介助を必要とする方が多くなったが、職員のペースにならないようゆっくり時間をかけている。食事のメニューをご利用者に伝え、食事を楽しめるような会話をしている。	ご利用者も準備・片づけ等を職員とともにやっている。食事は介助を必要とする方が多くなったが、職員のペースにならないようゆっくり時間をかけている。食事のメニューをご利用者に伝え、食事を楽しめるような会話をしている。	前回課題にしたことを運営推進会議の場において問題提起している。おやつ時間を一緒に楽しむことから試みるよう意見が出され、取り組んでいる。今では楽しい茶話会となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後記録をし、食事内容は栄養士の指導を受け実施している。水分摂取量は確保が難しいご利用者もいるため、支援していきたい。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを実施している。口腔ケアが難しいご利用者は、介助にて口腔内清潔に努める。拒否がみられる場合は、時間を置くなどして対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿時間を記録し把握に努めている。定期的な声掛けやご利用者の意思によるトイレ誘導に努めている。日中はおむつの使用を控え、リハパンの利用としている。		排せつ表を利用して、排せつパターンを把握したり、声を発することで察知するなど、また、立位できない方でもトイレでの排せつを促し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により、一人ひとりの排便パターンの把握に努めている。便秘の方に関しては医師の指示のもと、下剤を服用していただいている。また、座薬を使用していただくこともある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックと体調、ご利用者の希望を踏まえ、無理強いせず、個々のペースに合わせて入浴を楽しんでもらえるようにしている。また、出来るだけゆっくり入浴できるように配慮している。		希望者は毎日入浴できるが、一人ひとりゆっくりくつろいだ気分で入浴できるように、隔日おきにしている。季節のゆず湯なども取り入れ、入浴が楽しいものになるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、快眠できるように、日中一人ひとりの体調に合わせて体操、散歩、レクリエーション等への活動をし、同じ姿勢(車いす等)の方には声かけにより、横になっていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により、作用・副作用・食べ物(現在グレープフルーツ禁止の方あり)の確認。薬の変更等があった場合は、全職員が把握できるよう、申し送りノートに記載、周知徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意なことに合わせて、負担にならないよう、お盆拭きや洗濯物たたみ等、手伝って頂いている。午後3時のおやつをお出ししているが、ここでは好きなお菓子を選んでいただくこともある。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に沿い、ご家族と相談し、外出の機会づくりをしている。		職員の配置にゆとりある日が週2回あり、外出支援や行事を取り入れ楽しんでもらっている。彼岸には、家族協力の下、墓参りに行かれた利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームとしては預かりは行っていない。必要に応じ、ホームが立替を行い、介護請求時において、ご家族へ領収(写し)を添付し、立て替え分を請求している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所内に設置。電話をしたい時には、いつでも手に取り電話かける等、制限はしていない。お正月には年賀状を出す等、ご家族との交流を支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の催し物を制作して掲示板や飾り壁等に作品を飾り楽しんでいる。また、空調管理をし、適温を心がけ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	共用空間は、台所と共に多目的ホールとつながっている。調理台が低く、刻む食材が見えて家庭的な雰囲気がある。天窓にはすだれを施し、採光に配慮し、ホールにはソファや畳、庭にはベンチを置き、自由に楽しめるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールにはソファ、外庭にはベンチを設置。 ベンチでは朝・夕、涼みに外に出られたりと思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた椅子や小物類を持ち込まれている。	各部屋にはクローゼットがあり、思い思いのものが持ち込まれて収納されている。畳を好まれる利用者には、畳が施される仕組みになっており、その人の思いに沿う工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を下げ、自分の部屋であることを認識できるようにしている。また、トイレの表記もして、場所がわかりやすいようにしている。			